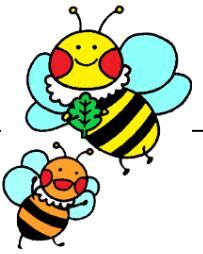


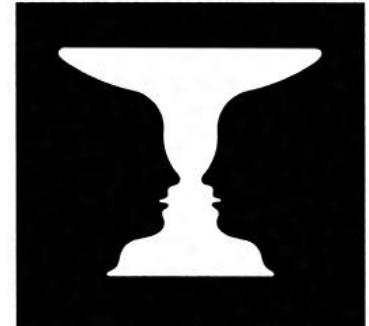


い　ぶ　き

【学校教育目標】自律・尊重



見方を変えて味方になる…



右の図を見てください。皆さんの中には何が見えますか？

「白い 盃」^{さかずき}が見えるでしょうか。それとも「人が向かい合っている横顔」が見えるでしょうか。これは「ルビンの 盃」^{さかずき}として知られた図です。人間のものの見え方には「図」と「地」があるということを示しています。「図」とは、そのものに注意が向かい形として認識されている部分を指します。一方「地」とは、背景となって形として認識されない部分を指します。白い部分が「図」（盃）^{さかずき}として認識される時、黒い部分は背景となり、黒い部分が「図」（人が向かい合っている横顔）と認識される時、白い部分は背景となります。（少しややこしいですね…）

さて、この見え方の違いは、私たちに大切なことを教えてくれます。「人の見方は一様ではない」ということ。そして、「人は自分の見たいように事象（世界）を見ている」ということです。

私たちは日々子どもたちの姿（言動）を目にしています。その時、ややもすると「自分の見ている子ども」が「子どもの姿」であると考えがちです。もちろんそれは、受け止めた人にとつて的一面的な真実ではあります（間違いではありません）。ただし、気をつけなければならぬのは、「自分の見ている子ども」が「子どもという存在の全てではない」ということです。

例えばここに、太郎君という男の子がいます。Aさんはこう言います。

「太郎君は落ち着きがない。自己中心的でいつも自分の考えを通そうとする。周囲の仲間や状況を見ようとしないから、すぐトラブルになる。将来どうなることやら。」

しかし、Bさんはこう言います。

「太郎君には行動力がある。やる気に満ちていて自分の意見を明確に示すことができる。リーダーの資質がある。将来有望だ。」

こういうことって、学校現場でもよく起こります。目の前にいるのは、「どちらも同じ太郎君」です。しかし、真逆と言ってもいいほど、「見る人によって見方が違う」わけですね。

なぜ、こんなことが起きるのか。それは先ほどもお伝えした通り、「人は自分の見たいように事象（世界）を見ている」からです。

ではここで問題です。AさんとBさんのどちらかが太郎君の担任になるとします。どちらの先生に担任してもらった方が、太郎君は成長するでしょうか。

もうお分かりですね。正解は「Bさん」です。なぜか。それは「他者からの『期待』」があることで、本人の意識や行動が変容し、期待通りの成果が現れやすくなるからです。これは、教育心理学の世界で実証されており、「ピグマリオン効果」と呼ばれています。たとえば、「君はやればできる」「君はリーダーになる素質がある」「音楽が得意なんだから、数学だって必ずできるようになる」というように、教師が期待して子どもを見守ることで、子どもが教師の期待通りに成長を遂げるということですね。ちなみに、この逆もあります。「ゴーレム効果」と呼ばれています。「否定的な見方、ネガティブな見られ方をすると、子どもはその通りの方に向かって進んでいく」というものです。恐ろしいですね…。

実は、今日話題に取り上げた「太郎くん」は、子どもの頃の私です。これでもAさんは、かなり控えめに見てくれています。実際の私の素行の悪さは、こんなものではなかったので…。

さて、私たち大人は子どもたちの「よりよい成長」を願っています。「悪い子に育てたい」「やる気も自信もない子に育てたい」と思う親や教師は一人もいないはずです。では、子どもにどう関わればよいのか。その答えの一つが「ピグマリオン効果」にあります。そうなんです。子どもに対してポジティブな見方をして、期待を寄せればいいのです。そのためにどうすればよいか。「子どもの見方を変える」ことです。見方（フレーム）を変えるので「リフレーミング」と呼ばれています（以前にもご紹介させていただきました）。先ほどの「ルビンの盃」を思い出してください。もし今、絵の中に「盃」が認識されているのだとしたら、視点を変えて「人が向かい合っている横顔」を探せばいいのです。それを子どもの見方に応用します。

○せっかち→決断力がはやい　　○落ち着きがない→行動力がある

○あきっぽい→切り替えが早く好奇心が旺盛　　○マイペース→周囲に流されない

○引っ込み思案→聞き上手、他者を尊重できる　　○頑固→信念がある

○目立ちたがり屋→表現力・発信力がある　　○優柔不断→慎重で多面的思考ができる

要は、「ネガティブな見方」を「ポジティブな見方」に変えるということです。ちなみに、このリフレーミングが上手になるための秘訣が2つあります。それは、謙虚さと習慣化です。謙虚さがなく、自分の弱さと向き合っていない大人はリフレーミングが苦手です。「自分を棚に上げて、相手を評価・批判すること」に意識を向ける傾向があるからです。「自分もたくさん弱さのある一人の人間だ」という自覚をもつことができれば、相手の弱さにも寛容になり、ポジティブな見方もできるようになります。あとは習慣化です。「違う見方ができないか」と、常に見方を変える訓練を意識的に積むことです。ポジティブな側面から子どもを見つめ直す習慣を身につけるには、訓練あるのみです。これは、全ての人間関係に応用することができます。もちろん、夫婦関係にも…。

「見方を変えて味方になる」ことで、子どもたちの成長を促していくたいのですね。

◇ 1月の行事予定

	曜日	行事予定	日	曜日	行事予定
1	土	5年 林間学校（～2日） 手賀の丘青少年自然の家	17	月	脊柱側弯症二次検診
3	月	(祝) 文化の日	20	木	6年 パラリンピック選手の講話(四中)
4	火	5年 振替休業日（～5日）	21	金	音楽発表会（児童向け） 5時間授業
6	木	全校朝会	22	土	音楽発表会(保護者向け) 午前日課 下校 12:30
7	金	3年 ステップアップ学習	23	日	(祝) 勤労感謝の日
8	土	技術家庭科作品展（～9日） さわやか県民プラザ	24	月	振替休日
11	火	クリーンボランティア 10:00	25	火	就学時健診 3時間授業(給食あり) 下校 12:30
12	水	クラブ活動② 卒業アルバム写真撮影(クラブ活動)	26	水	5年 朝学習 読み聞かせ おりがみ教室(ひまわり)
13	木	代表委員会(昼休み)	27	木	柏市学力・学習状況調査
14	金	3年 ステップアップ学習	28	金	振替休業日（22日 土曜日分）